

平成 21 年度第 1 回（第 7 期第 2 回）浦安市廃棄物減量等推進審議会（議事要旨）

1 開催日時 平成 21 年 5 月 26 日（月） 午前 10 時～正午

2 開催場所 クリーンセンター 2 階 大会議室

3 出席者

（委員）

横山会長、服部副会長、助川委員、神野委員、奥井委員、芝田委員、内田委員、山口委員、大塚委員、吉田委員、武田委員、牧野委員

（事務局）

大野都市環境部長、長峰都市環境部次長、
伊藤ビーナスプラザ所長、峰崎クリーンセンター次長、
永井ごみゼロ課長、齋藤クリーン推進係長、土田主任主事

4 議題

（1）平成 20 年度ごみ量の実績について

（2）クリーンセンター・リサイクルプラザ・ビーナスプラザ施設見学

5 議事の概要

（1）平成 20 年度のごみ量の実績及び焼却残渣処分量についての説明及び報告

（2）クリーンセンター・リサイクルプラザ・ビーナスプラザの施設見学

6 会議経過

会長の挨拶、都市環境部長及び次長の挨拶、クリーンセンター次長及びビーナスプラザ所長の挨拶を行い、事務局の紹介を行った後、会長が議事を進行した。

事務局から「平成 20 年度のごみ量の実績及び焼却残渣処分量について」の説明及び報告を行い、委員より質問を受けた。その際の質問及び事務局の回答は次のとおり。

・委員

焼却灰は埋め立て及びエコセメント化以外の処理の方法はないのか。

・事務局

ガス溶融炉という焼却炉であれば埋め立て及びエコセメント化以外の処理が可能である。しかし、本市の焼却炉はガス溶融炉ではないので、現状では埋め立て及

びエコセメント化以外の処理は難しい。

・委員

家庭系の燃やせるごみの中で生ごみはどれくらいの割合を占めるのか。

・事務局

ごみ組成としては、紙布 56.3% プラスチック類 32.9% 生ごみ 6.7% 木竹わら 1.9% 不燃物 0.2% その他 2.0%である。

・委員

生ごみを燃やすというのは効率が悪い気がするが、別の再資源化を考えていないのか。

・事務局

生ごみの再資源化としては、現在主に飼料化・肥料化・メタンガス発酵による発電がある。現在市内の小学校の給食の残渣は、メタンガス発酵による発電という形でリサイクルを行っている。しかし、現在のところ家庭の生ごみを再資源化するという具体的な施策には至っていない。

・委員

もし現在埋め立てをしている最終処分場が満杯になってしまったら次の最終処分場を確保しなくてはならないと思うが、次の候補地があるのか。

・事務局

候補地を見つけるのは簡単なことではない。

ここ最近ではごみの減量が進んでいるため、残余年数が延びてきている。今後もごみの減量を進め、最終処分場への埋め立て量を減らし、残余年数を延ばして、少しでも長持ちさせることが大切になってくる。

ごみ処理に関しては、自区域内処理が法律の原則である。東京都は都内で発生したごみの最終処分を、東京湾の中にある中央防波堤内に埋め立てて行っている。だが浦安市は、市内で最終処分ができず、北茨城市と下妻市に依存している。

委員

最終処分の費用は1トンあたりどれくらいかかるのか。

・事務局

北茨城市の最終処分場への埋め立ては、処理費で1トンあたり 29,000 円（税抜き）、運搬費で 8,000 円（税抜き）となっている。

また、エコセメント化は、処理費で1トンあたり 45,000 円（税抜き）、運搬費で 4,600 円（税抜き）となっている。

続いて、クリーンセンター・リサイクルプラザ・ビーナズプラザの施設見学を行い、見学後事務局より挨拶を行い、終了となった。